

第6回 東京グローバル・ダイアログ

登壇予定者(1月24日現在)

(★モデレーター ◎パネリスト。モデレーター以外(パネリスト)はアルファベット順)

(以下のプログラムおよび登壇者は1月24日時点のものであり、変更される可能性があります。)

1月29日(水)

<オープニング>

開会辞

佐々江 賢一郎 日本国際問題研究所理事長、元駐米大使

公益財団法人日本国際問題研究所理事長。1974年東京大学法学部卒業。同年外務省入省。北米第二課長、北東アジア課長、内閣総理大臣秘書官、総合外交政策局審議官、経済局長、アジア大洋州局長、外務審議官、外務事務次官、駐米大使などを歴任。2018年6月より現職。多くの対外経済交渉を手掛け、また「六者協議」の日本代表、G8サミットの政務局長を務めるなど、外交官として豊富で幅広い経験を持つ。岡山県出身。

<米新政権と国際秩序：日本の立ち位置>

★ 彦谷 貴子 学習院大学国際センター教授

学習院大学国際センター教授、アジア・ソサエティ政策研究所シニアフェロー。2016年から2021年までコロンビア大学准教授(現代日本政治・外交政策)。1999年から2016年まで防衛大学校で教える。政軍関係、日本国内政治、日本外交を中心に研究。近著には“*How the Ukraine War is Changing Japan*,” *Foreign Affairs*, April 28, 2022; “*The Japanese Diet and Defense Policy-making*,” *International Affairs*, 94:1, July 2018; “*Trump's Gift to Japan: Time for Tokyo to Invest in the Liberal Order*,” *Foreign Affairs*, September/October 2017 などがある。慶應義塾大学で学士号、慶應義塾大学およびスタンフォード大学で修士号、コロンビア大学で博士号(政治学)を取得。

◎ パトリック・M・クローニン ハドソン研究所アジア太平洋安全保障部長、

カーネギーメロン大学客員研究員

ワシントンのハドソン研究所でアジア太平洋安全保障担当部長を務めるかたわら、カーネギーメロン大学客員研究員としてアジア安全保障対策について講義を行っている。大手シンクタンクの分析部門や幹部職を歴任。ロンドンに本部を置く国際戦略研究所(IISS)の研究部長、国際安全保障研究センター(CSIS)上級副

所長兼研究部長、米国平和研究所（USIP）研究部長、新アメリカ安全保障センター（CNAS）研究部長、国防大学国家戦略研究所（INSS）所長などを歴任。ジョージ・W・ブッシュ政権では、米国際開発庁（USAID）にて上級三位にあたる職務を務めた。

◎ 柯 隆 東京財団政策研究所主席研究員

中華人民共和国・江蘇省南京市生まれ。1988年に留学のため、来日。1992年、名古屋大学大学院経済学研究科にて修士号（経済学）を取得。同年、長銀総合研究所に研究員として着任。その後、富士通総研主任研究員、同主席研究員を経て、2018年より東京財団主席研究員（現職）。現在、静岡県立大学グローバル地域センター特任教授及び多摩大学大学院客員教授を兼務する。主な研究分野は、中国の金融システムやマクロ経済など。近著に『中国不動産バブル』（文芸新書、2024年）がある。

◎ 佐々江 賢一郎 日本国際問題研究所理事長、元駐米大使

公益財団法人日本国際問題研究所理事長。1974年東京大学法学部卒業。同年外務省入省。北米第二課長、北東アジア課長、内閣総理大臣秘書官、総合外交政策局審議官、経済局長、アジア大洋州局長、外務審議官、外務事務次官、駐米大使などを歴任。2018年6月より現職。多くの対外経済交渉を手掛け、また「六者協議」の日本代表、G8サミットの政務局長を務めるなど、外交官として豊富で幅広い経験を持つ。岡山県出身。

◎ ランドール・シュライバー プロジェクト 2049 研究所理事長、パシフィック

ソリューション・パートナー

パシフィックソリューションのパートナーであり、アジアの安全保障動向の研究を専門とする非営利研究機関、プロジェクト 2049 研究所の理事長を兼務している。直近では 2018 年 1 月から 2019 年 12 月までインド太平洋安全保障問題担当国防次官補を務めた。同職では約 2 年間、アジア政策と広範なインド太平洋地域の管理を担当する国防総省の最高幹部だった。ASD に就任する前は、国際的な事業開発と戦略を専門とするコンサルティング会社、アーミテージ・インターナショナル LLC の 5 人の創業パートナーの 1 人であった。また、プロジェクト 2049 研究所の CEO 兼社長でもあった。

これまでの政府経験としては、国務次官補代理（東アジア・太平洋担当）（2003-05 年）、国務次官補首席補佐官兼上級政策顧問（2001-03 年）、国防長官室中国・台湾・モンゴル担当上級カントリー・ディレクター（1994-98 年）などがある。公務員に就く前は、1989 年から 1991 年まで現役の海軍情報将校として勤務し、砂漠の盾／砂漠の嵐作戦の支援に従事した。現役任務の後、海軍予備役として 9 年間勤務し、統合参謀本部議長特別補佐官、米国大使館（北京）および米国大使館（ウランバートル）でのアタッシュなどを歴任。米台ビジネス協議会理事、笹川平和財団顧問を務めるほか、スタンフォード大学の「スタンフォード・イン・ワシントン」プログラムで米国外交政策を教えている。

オレゴン州出身。ウィリアムズ・カレッジで学士号、ハーバード大学で修士号を取得。

<20 世紀史からの教訓：世界戦争と冷戦の時代>

★ 細谷 雄一 慶應義塾大学教授

立教大学法学部卒業、バーミンガム大学大学院国際学研究科修了（MIS）、慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程修了、博士（法学）。プリンストン大学客員研究員（フルブライト・フェロー）、パリ政治学院客員教授（ジャパン・チェア）、ケンブリッジ大学ダウニング・カレッジ訪問研究員などを歴任。日本国際問題研究所上席客員研究員を兼任。「安全保障と防衛力に関する懇談会」委員（2013 年）、「安全保障の法的基盤の再構築に関する懇談会」委員（2013-14 年）、国家安全保障局顧問会議顧問を歴任（2014-16 年）。主な著書に、『国際秩序』（中公新書、2012 年）、『歴史認識とは何か』（新潮社、2015 年）など。

◎ バラク・クシュナー ケンブリッジ大学教授

東アジア史が専門。これまでに編集・執筆を手がけた書籍は 8 冊を数え、最新のものとして、The Geography of Injustice: East Asia's Battle between Memory and History。それ以前の著作に Men to Devils, Devils to Men: Japanese War Crimes and Chinese Justice（アメリカ歴史学会ジョン・K・フェアバンク賞受賞）、Slurp! A culinary and social history of ramen - Japanese's favorite noodle soup。2020 年には、戦争犯罪裁判をテーマにした中国のテレビドキュメンタリーシリーズで 3 エピソードのホストを務めた。2013 年から 2019 年まで、欧州研究評議会の 150 万ユーロ規模のプロジェクト「日本帝国の解体と戦後東アジアにおける正統性の闘争、1945-1965」を統括。現在、国際交流基金フェローとして早稲田大学にて在外研究中。新たなプロジェクトとして、日本の復員によって戦後東アジアの軍事化がどのように形成されたかを研究している。

◎ 中西 寛 京都大学教授

1962 年大阪府生。京都大学法学部、京都大学大学院法学研究科、シカゴ大学歴史学部大学院を経て 1991 年京都大学法学部助教授、2002 年京都大学大学院法学研究科教授、2024 年から京都大学公共政策大学院教授。専門は国際政治学、特に 20 世紀国際政治史、安全保障論、日本外交論など。日本国際政治学会理事長(2014-16 年)、「国力としての防衛力を総合的に考える有識者会議」委員（2022 年）、外務省「開発協力大綱改定に関する有識者懇談会」座長（2022 年）など。主要著作『国際政治とは何か－地球社会における人間と秩序』（中公新書）、（共著）『国際政治学』（有斐閣）、（共著）『漂流するリベラル国際秩序』（日本経済新聞社出版）など。

◎ 島津 直子 東京大学教授

2023 年 8 月より東京大学国際高等研究所東京カレッジ 教授。グローバルヒストリーの研究、主にグローバル外交の文化的アプローチの再考察や学際的研究を広く実践している。ロンドン大学バークベック・カレッジ 歴史学部（1996-2016）を経て、シンガポール国立大学 Yale-NUS College（2017-2023）、同アジア研究所(2021-2023)で教鞭を執った。主な著書として、「冷戦アジア：ビジュアルヒストリーとしてのグローバル外交」（ケンブリッジ大学出版会/近日刊行予定）、「日本社会と戦争：日露戦争期に於ける死とメモリー」（ケンブリッジ大学出版会）と「日本、人種、平等：1919 年人種平等案」（ラウトレッジ出版社）などがある。

< 欧州の安全保障情勢がインド太平洋に与える影響 >

★ノア・スナイダー エコノミスト誌 東アジア支局長

エコノミスト誌東アジア支局長。主に日本、北朝鮮、韓国を担当。また、中国、台湾、太平洋地域、フィリピンの取材や、より広範なアジアのテーマ別取材にも貢献している。それ以前は東京支局長として日本報道を担当。また、モスクワ特派員としてロシアとウクライナを担当した。エコノミスト入社以前は、ニューヨーク・タイムズ、ハーバード、アトランティックなど、さまざまな出版社で取材を重ねた。彼の作品は「Best American Travel Writing」シリーズにまとめられている。マクダウェル・フェロシップ受賞。日本と韓国に住み仕事をする家族の3代目の一員でもある。

◎ マリー＝ドア・ブザンスノ NATO 広報担当事務総長補

マリー＝ドア・ブザンスノは2023年9月、NATOの広報担当事務総長補に就任した。広報担当部(PDD)は、世界中にNATOの知名度を高め、NATOの活動や政策に対する支持を構築するために活動している。フランスの高等師範学校(École Normale Supérieure)を卒業し、英語の上級資格とドイツ研究の修士号を取得。2005年にパリ・ウエスト・ナンテール大学でアメリカ研究の専門家としてキャリアをスタートさせ、2009年に演説とコミュニケーションを担当するアドバイザーとして首相府に入省。2012年、在英フランス大使館文化担当官として外務省に入省。2014年、アリアンツ・フランスにCEO室長として入社し、2016年に広報・CSR部長に就任。2020年からは広報・ブランド・CSR部門を統括し、ブランドの認知度向上とブランド価値の向上を図る。

2021年から2022年にかけて、フランス陸軍士官学校の29期生とともに授業を聴講。2021年、アスペン・フランス研究所のヤング・リーダーの一人に選ばれる。

◎ ビル・エモット 国際問題戦略研究所(IISS) 理事長

1993年から2006年までの13年間、エコノミスト誌の編集長を務めたことで知られる作家/コンサルタント。現在は国際問題戦略研究所(IISS)理事長、国際貿易研究所会長、戦略情報コンサルタント会社メントローズ・アソシエイツの地政学担当上級顧問、ダブリンのチェスター・ビーティ図書館の評議員、東京大学東京カレッジの潮田フェローを務める。2016年、日英関係への貢献が認められ、日本政府より「旭日中綬章」を受章。日本、アジア、20世紀、イタリアに関する著書は15冊に及ぶが、なかでも『抑止力、外交、そして台湾をめぐる紛争リスク』はIISS Adelphi Bookとして出版され、扶桑社から『第三次世界大戦をいかに止めるか 台湾有事のリスクと日本が果たすべき役割』というタイトルで邦訳も出版されている。

◎ フェデリカ・モゲリーニ 欧州大学学長/前 EU 外務・安全保障政策上級代表

フェデリカ・モゲリーニは、欧州大学学長(2020年9月より)および欧州大学が実施する欧州連合外交アカデミーのディレクター(2022年8月より)。

それ以前は、欧州連合(EU)外務・安全保障政策上級代表および欧州委員会副委員長(2014-19年)を務めた。さらにそれ以前は、イタリア外務・国際協力大臣(2014年)、イタリア下院議員(2008~14年)

を歴任。国会議員としては、NATO 議員総会イタリア代表団団長兼政治委員会副委員長（2013-14 年）、欧州評議会議員総会イタリア代表団メンバー（2008-13 年）、国防委員会書記（2008-13 年）、外務委員会メンバーを務めた。また、開発協力のための議員連盟のコーディネーターも務める。

2020 年 1 月から 2021 年 9 月まで、国連「国内避難に関するハイレベル・パネル」の共同議長を務める。フェデリカ・モゲリーニは、軍縮に関する諮問委員会（ADBIM）メンバー、国際危機グループ評議員会およびロックフェラー・ブラザーズ基金評議員、ジャーマン・マーシャル基金フェロー、核脅威イニシアチブ（NTI）、イタリア外交問題研究所（IAI）理事、米国芸術科学アカデミー会員でもある。欧州評議会ハイレベル検討グループのメンバーを務めた。ローマ・サピエンツァ大学で政治学の学位を取得。1973 年生まれ、現在ベルギーに居住し、2 人の娘を持つ。

◎ ハンノ・ペヴクール エストニア共和国防衛大臣（調整中）

ハンノ・ペヴクールは 2022 年 7 月 18 日、エストニア共和国防衛大臣に就任した。それ以前は、2016 年から 2022 年まで第 13・14 代リギコグ議員を務め、複数の閣僚を歴任：内務大臣（2014～2016 年）、法務大臣（2012～2014 年）、社会問題大臣（労働、健康、社会保護の分野を担当）。2000 年にエストニア改革党員となり、現在はエストニア改革党理事も務める。2017 年から 2018 年にかけては改革党委員長を務めた。エストニア政府、エストニア議会（Riigikogu）、地方自治体で要職を歴任。

< ご挨拶 >

石破 茂 内閣総理大臣（調整中）

内閣総理大臣及び自由民主党総裁。衆議院議員（当選 13 回）。防衛大臣、農林水産大臣を経て 2014 年から 2016 年まで地方創生・国家戦略特別区域担当大臣。2024 年 11 月から現職。

1月30日（木）

< 国際の平和と安全における AI（人工知能） >

★秋山 信将 日本国際問題研究所軍縮・科学技術センター所長

日本国際問題研究所軍縮・科学技術センター所長。一橋大学大学院法学研究科/国際・公共政策大学院教授も務める。2022年から2024年まで同大学院学院長を務めた。前職は、2016年4月から2018年3月まで、外務省に出向し、在ウィーン国際機関日本政府代表部公使参事官および核セキュリティ大使特別補佐官を務めた。その他の公職として、法務省公安審査会委員、岸田文雄首相が立ち上げた『核兵器のない世界』に向けた国際賢人会議「委員」、2000年よりNPT再検討会議日本政府代表団アドバイザーを務める。最近の論文に、“‘No first use’ in the context of the U.S.-Japan Alliance,” *Asian Security*, (2021年)、“AI Nuclear Winter or AI That Saves Humanity? AI and Nuclear Deterrence,” Joachim von Braun, Margaret S. Archer, Gregory M. Reichberg, Marcelo Sanchez-Sorondo, eds, *Robotics, AI, and Humanity* (Springer, 2021年)、船橋洋一・G・ジョン・アイケンベリー編『自由主義の危機—国際秩序と日本』、東洋経済新報社、2020年、“Japan’s Nuclear Disarmament Dilemma,” Gorge P. Schultz and James Goodby, eds., *The War That Must Never Be Fought* (Stanford, the Hoover Institution, 2015年)等がある。

◎ 伊藤 錬 株式会社サカナ AI 共同創業者兼 COO

サカナ AI は東京を拠点とする研究開発企業であり、自然から着想を得た知性に基づく新しい AI 基盤モデルの創造を目指している。サカナ AI は、創業 1 年で日本最速のユニコーンとなり、Nvidia や幅広い日本企業の支援を受けている。サカナの前は、メルカリ・ヨーロッパ CEO として日本初のユニコーンのスタートアップであるメルカリのグローバル展開を主導し、2018 年には 60 億ドルの IPO を成功させた。ハイテク業界以前は、日本の外交官として 15 年間、米国との安全保障同盟の締結、EU との自由貿易協定の交渉、世界銀行理事会での日本代表を務めた。ニューヨーク大学ロースクールシニアフェロー。法学修士号（ニューヨーク大学 2004 年）および法学士号（東京大学 2001 年）を取得し、ニューヨーク州弁護士資格を有する。また、スタンフォード大学大学院修士課程修了（2005 年）。

◎ 中満 泉 国連事務次長兼軍縮担当上級代表

2017 年 5 月 1 日、国連事務次長兼軍縮担当上級代表に就任。2014 年より国連開発計画（UNDP）危機対応ユニット次長。国連システム内外で長年の経験を有し、直近では 2016 年から 2017 年にかけて「難民と移民の大規模な移動への対処に関するサミット」のフォローアップに関する暫定特別顧問を務めた。それ以前は、国連平和維持活動局アジア・中東部長を務めていた。

2012 年から 2014 年まで国連平和維持活動局アジア・中東部長、2008 年から 2012 年まで同局政策・評価・訓練部長。

1963 年生まれ。ワシントン D.C. のジョージタウン大学で外務修士号、早稲田大学で法学士号を取得。結婚しており、2 人の娘がいる。

◎ ヴィピン・ナラン マサチューセッツ工科大学核安全保障フランク・スタントン教授

2022年3月から2024年8月まで、国防次官補代理を務め、その後、国防次官補代理（宇宙政策担当）として、核、宇宙、ミサイル防衛、サイバー政策など、米国防総省の戦略的能力を監督。その功績により、国防総省から功労勲章を授与された。

地域の核保有国の抑止戦略に関する初の著書『現代における核戦略』（プリンストン大学出版局、2014年）は、2015年ISA国際安全保障研究部門最優秀図書賞を受賞。2冊目の著書『Seeking the Bomb: Strategies of Nuclear Proliferation』をプリンストン大学出版局より2022年に出版。『国際安全保障』、『紛争解決ジャーナル』、『ワシントン・クォーターリー』、『国際機構』、『フォーリン・アフェアーズ』、『ワシントン・ポスト』、『ニューヨーク・タイムズ』など、さまざまな媒体に寄稿。安全保障研究の分野に最も大きく貢献した研究者に贈られる国際問題研究協会の2020年ISSS Emerging Scholar Awardを受賞。2010年、ハーバード大学政府学部で博士号を取得。スタンフォード大学で化学工学の学士号と修士号を優秀な成績で取得し、マーシャル奨学金で留学したオックスフォード大学バリオール・カレッジで国際関係の修士号を優秀な成績で取得。ハーバード大学オリン戦略研究所フェロー、ハーバード大学ペルファー科学国際問題センター・プレドクトラルフェロー、スタンフォード大学国際安全保障協力センター・スタントンジュニアファカルティフェローを歴任。研究テーマは、核拡散と戦略、北朝鮮の核兵器、南アジアの安全保障、安全保障研究全般。

<インド太平洋のチョークポイントを語る：台湾海峡・南シナ海・東シナ海・朝鮮半島>

★ ジョシュア・W・ウォーカー ジャパン・ソサエティー理事長

ジョシュア・W・ウォーカー博士は、2019年12月にジャパン・ソサエティーの理事長兼CEOに就任。ジャパン・ソサエティーへの就任前は、ユーラシア・グループでグローバル戦略イニシアチブ及び社長室日本担当の責任者を務めた。2017年カザフスタン万博の米国パビリオンのCEO、APCO Instituteの創設者、APCO Worldwideのシニア・バイス・プレジデントを歴任。また、国務省、防衛省等様々な米国政府機関で職務を担当した。CSPC（the Center for the Study of the Presidency and Congress）のシニアフェロー、ジョージ・メイソン大学教授を兼任。米国ジャーマン・マーシャル財団の大西洋フェローを務め、イェール大学国際問題ジャーナルを共同設立した。リッチモンド大学で学士号、イェール大学で修士号、プリンストン大学で博士号を取得。日本育ちで、日米両国の文化の理解者でバイリンガル。

◎ ヴィクター・チャ 米戦略国際問題研究所(CSIS) 地政学・外交政策部長兼

韓国チェア、ジョージタウン大学特別名誉教授

米戦略国際問題研究所(CSIS) 地政学・外交政策部長兼韓国チェア。ジョージタウン大学特別名誉教授兼政治学教授でもある。2021年、バイデン政権から国防長官の顧問として国防政策委員会の委員に任命さ

れる。2004年から2007年まで、国家安全保障会議（NSC）で日本、韓国、オーストラリア／ニュージーランド、太平洋島嶼国を担当。NSC在任中、6者協議の米国代表団副団長を務め、2度の優秀功労賞を受賞。『Alignment Despite Antagonism: The United States-Korea-Japan Security Triangle』（スタンフォード、1999年）（2000年大平正芳記念賞受賞）、『The Impossible State: North Korea, Past and Future』（Ecco、2012年）（フォーリン・アフェアーズ誌の「2012年アジア太平洋ベストブック」に選出）、『Powerplay: Origins of the American Alliance System in Asia』（プリンストン、2018年）、『Korea: A New History of South and North』（イェール、2023年）、『The Black Box: Methods and Data in the Study of Korean Unification and North Korea』（コロンビア大学出版、2024年）を含む8冊の著書がある。フルブライト奨学生を2度務め、ハーバード大学の元オリン・フェロー、スタンフォード大学の元フーパー、CISAC、コレト・フェロー。現在、10誌の学術誌の編集委員を務め、コロンビア大学出版のContemporary Asia book seriesの共同編集者でもある。全米民主主義基金理事、ジョージ・W・ブッシュ研究所シニアフェロー。MSNBCとNBCニュースの外交問題寄稿者でもある。コロンビア大学で博士号、修士号、学士号、オックスフォード大学で優等学士号を取得。

◎ ジャスティン・ヘイハースト 駐日オーストラリア大使

ジャスティン・ヘイハースト氏は、駐日オーストラリア大使として任命を受け、2023年1月に着任した。幹部外交官のヘイハースト氏は、最近までオーストラリア政府外務貿易省で副次官（戦略地政学グループ担当）を務めていた。副次官に就任する前は、首相内閣省国際局長として活躍していた。2016-17年には、外交政策白書作業部会担当局長に抜擢された。2012-16年には、在中オーストラリア大使館首席公使を務めた。2007-09年には外務大臣顧問として、北アジアや南アジア、アフガニスタン、イラク、テロ対策を担当した。2004-07年には内閣調査庁のシニアアナリスト、2001-04年には在フィリピン・オーストラリア大使館の二等書記官を務めた。1999年に外務貿易省に入省。メルボルン大学で歴史を専攻し、学士号（優等学位）を得ているほか、モナシュ大学で外務・貿易を学び、大学院ディプロマを取得している。

◎ パク・チョルヒ 駐日大韓民国大使

名前：パク・チョルヒ（朴喆熙）

生年月日：1963. 2. 11.

学歴：

1986. 2. ソウル大学政治学科 卒

1988. 2. ソウル大学政治学 修士

1998.10. 米コロンビア大学政治学 博士

主要経歴：

1998～1999 米コロンビア大学東アジア研究所博士後研究員

1999～2002 日本国立政策研究大学院大学准教授

2002～2004 外交安保研究院アジア太平洋研究部准教授

2012～2016 ソウル大学日本研究所長

2016～2018 ソウル大学国際大学院長

2017～2017 現代日本学会会長

2004～2023 ソウル大学国際大学院准教授・副教授・教授

2019～2023 ソウル大学国際学研究所長

2023～2024 外交部国立外交院長

2024. 8. 駐日本国大韓民国特命全権大使

◎ 呉 軍華 日本総合研究所上席理事

中国復旦大学卒。東京大学大学院博士課程修了後日本総合研究所入社。主任研究員、香港駐在員事務所長、日綜上海諮詢有限公司社長・会長等を経て現職。その間、香港大学やハーバード大学・ジョージワシントン大学・復旦大学客員研究員、AEI リサーチフェロー、ウットロウィルソン国際学術センター公共政策スカラー等を兼務。

専門は中国の政治・経済と米中関係で、主な著書は『中国：静かなる革命』（第25回大平正芳記念賞特別賞、日本経済新聞出版社）、『オバマのアメリカ』（共著、東洋経済新報社）など。

<グローバル・アーキテクチャーの再構築は可能か>

★ 佐々江 賢一郎 日本国際問題研究所理事長、元駐米大使

公益財団法人日本国際問題研究所理事長。1974年東京大学法学部卒業。同年外務省入省。北米第二課長、北東アジア課長、内閣総理大臣秘書官、総合外交政策局審議官、経済局長、アジア大洋州局長、外務審議官、外務事務次官、駐米大使などを歴任。2018年6月より現職。多くの対外経済交渉を手掛け、また「六者協議」の日本代表、G8サミットの政務局長を務めるなど、外交官として豊富で幅広い経験を持つ。岡山県出身。

◎ ビル・エモット 国際問題戦略研究所（IISS）理事長

1993年から2006年までの13年間、エコノミスト誌の編集長を務めたことで知られる作家／コンサルタント。現在は国際問題戦略研究所（IISS）理事長、国際貿易研究所会長、戦略情報コンサルタント会社モントローズ・アソシエイツの地政学担当上級顧問、ダブリンのチェスター・ビーティ図書館の評議員、東京大学東京カレッジの潮田フェローを務める。2016年、日英関係への貢献が認められ、日本政府より「旭日中綬章」を受章。日本、アジア、20世紀、イタリアに関する著書は15冊に及ぶが、なかでも『抑止力、外交、そして台湾をめぐる紛争リスク』はIISS Adelphi Bookとして出版され、扶桑社から『第三次世界大戦をいかに止めるか 台湾有事のリスクと日本が果たすべき役割』というタイトルで邦訳も出版されている。

◎ ビラハリ・コーシカン シンガポール国立大学中東研究所名誉フェロー

シンガポール外務省に37年間勤務。外務省での37年間、国内外でさまざまな役職を歴任。駐ロシア大使、在ニューヨーク国連常駐代表、東南アジア担当次官、第2次官、次いで次官を歴任。2013年に退任すると、特命全権大使に任命され、2018年まで同職を務めた。2017年にシンガポール国立大学の自治

機関である中東研究所（MEI）の会長に就任し、2024年に退任したが、現在も名誉フェローとして同研究所と関係がある。同氏は3冊の著書--『Dealing with an Ambiguous World』（2016年）、『Singapore Is Not An Island』（2017年）、『Singapore Is Still Not An Island』（2023年）--のほか、国内外の学術誌に多くの論文を発表している。

◎H. K. シン デリー政策グループ（DPG）所長／元駐日インド大使

日本やインドネシアをはじめとする数カ国において大使を歴任。駐日インド大使を務めた。外交官として米国、西ヨーロッパ、欧州連合、国連、インドの近隣諸国（南アジア、東南アジア）に対する重要な任務を歴任。2011年から2016年まで、シン大使はニューデリーのICRIERで議長兼教授を務めていた。2016年6月にインドで最も歴史のある独立系シンクタンクであるデリー政策グループ所長に就任。2022年11月、インドとの友好関係促進に寄与したとして、日本政府から「旭日大綬章」を授与された。

◎ ジョシュア・W・ウォーカー ジャパン・ソサエティー理事長

ジョシュア・W・ウォーカー博士は、2019年12月にジャパン・ソサエティーの理事長兼CEOに就任。ジャパン・ソサエティーへの就任前は、ユーラシア・グループでグローバル戦略イニシアチブ及び社長室日本担当の責任者を務めた。2017年カザフスタン万博の米国パビリオンのCEO、APCO Instituteの創設者、APCO Worldwideのシニア・バイス・プレジデントを歴任。また、国務省、防衛省等様々な米国政府機関で職務を担当した。CSPC（the Center for the Study of the Presidency and Congress）のシニアフェロー、ジョージ・メイソン大学教授を兼任。米国ジャーマン・マーシャル財団の大西洋フェローを務め、イェール大学国際問題ジャーナルを共同設立した。リッチモンド大学で学士号、イェール大学で修士号、プリンストン大学で博士号を取得。日本育ちで、日米両国の文化の理解者でバイリンガル。